

3 アイコンの説明

アイコン	意味	説明
	ヒント	知っている便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

4 各部の名称

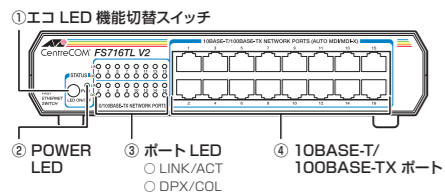


図1 正面図

- エコLED切替スイッチ (LED ON/OFF)**
エコLED機能の有効/無効を切り替えるためのスイッチです。エコLED機能を有効にすることにより、ポートLEDを消灯し、消費電力を低減できます。
■ OFF: エコLED機能が無効になり、ポートLEDは通常通り動作します。
■ ON: エコLED機能が有効になり、ポートLEDは消灯します。

POWER LEDは、エコLED機能の有効/無効にかかわらず常時点灯します。

- POWER LED (緑)**
本体に正常に電源が供給されているときに点灯します。

- ポートLED**
 - LINK/ACT LED (緑/橙)
ポートと接続先機器が100Mbpsでリンクしたときに緑で点灯し、10Mbpsでリンクしたときに橙で点灯します。パケットを送受信しているときに点滅します。
 - DPX/COL LED (緑)
ポートがFull Duplexで動作しているときに点灯します。Half Duplexで動作し、コリジョンが発生したときに点滅します。

- 10BASE-T/100BASE-TXポート**
UTPケーブルを接続するためのコネクタ（RJ-45）です。ケーブルは、10BASE-T接続の場合はカテゴリ3以上、100BASE-TX接続の場合はカテゴリ5以上のUTPを使用します。
本製品の10BASE-T/100BASE-TXポートは、2つの省エネ機能を備えています。
 - 省電力モード
ポートが使用されていないときに、ポートの消費電力を自動的に抑えることができます。
 - ケーブル長省電力機能
LANケーブルの長さを自動判別することで、供給する電力を調節し、消費電力を低減できます。



図2 背面図

- 電源コネクタ**
電源ケーブルを接続するためのコネクタです。
- フック取り付けプレート**
オプション（別売）の電源ケーブル抜け防止フックを取り付けるプレートです。

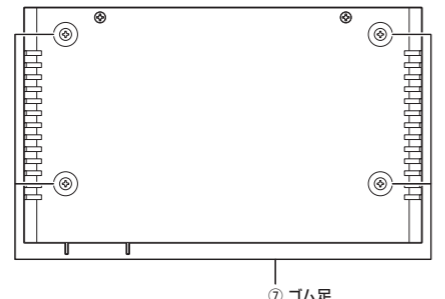


図3 底面図

- ゴム足 (4箇所)**
平らなところに設置するためのゴム足です。オプション（別売）のマグネットキットを使用する場合は、ゴム足を外します。

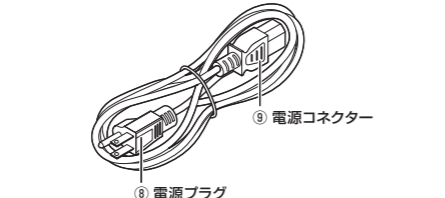


図4 電源ケーブル

- 電源プラグ**
電源ケーブルを電源コンセントに接続するためのプラグです。
- 電源コネクタ**
電源ケーブルを本製品に接続するためのコネクタです。同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご利用の場合は、設置業者にご相談ください。

5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。

設置方法

本製品は、次の方法による設置ができます。

- 平らなところへの水平方向の設置

- ラックマウントキットによる19インチラックへの設置

オプション（別売）を利用することにより、次の方法による設置ができます。

- 壁設置ブラケット (AT-BRKT-J22) による壁面への設置

- マグネット Kit XSによるスチール製壁面への設置

- ・弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災、故障の原因となります。
- ・水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的な製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。

- ・電源部が下向きになる方向で設置する場合には、必ず、オプション（別売）の電源ケーブル抜け防止金具 (AT-RTNR-01) を使用し、電源ケーブルを固定してください。
- ・製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置準備

- **設置するときの注意**

設置にあたっては、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機のそばに設置しないでください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底部を上にして設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本体にある通風口をふさがないように設置してください。
- 本体の上にものを置かないでください。

- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

- 本製品は屋外ではご使用になれません。

- コネクタの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手(体)でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

設置

- **平らなところに設置する**

本製品は、ゴム足を取り付けた状態で出荷されますので、そのままデスクの上などの平らなところに設置して使用できます。

- **19インチラックへの設置**

本製品を19インチラックに取り付ける場合には、同梱の19インチラックマウントキットをご使用ください。本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。



図5 ラックマウントキットを使用する場合の設置方向

- ・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ・ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- ・本製品を19インチラックに取り付ける際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルを外す**

- ゴム足を外す**
本体底面の四隅にネジ留めされているゴム足を、ドライバーで外します。

- 本体にブラケットを取り付ける**
同梱のラックマウントブラケットを、付属のネジを用いて本体両側にしっかりと固定してください。

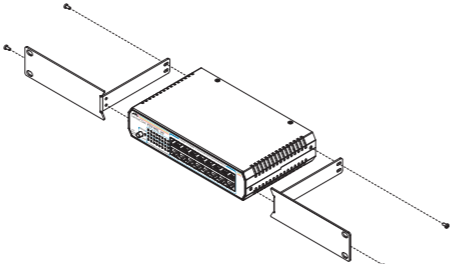


図6 ラックマウントブラケットの取り付け

- 19インチラックに取り付ける**
19インチラックの希望する位置に本体を合わせ、適切なネジ（別途ご用意ください）でしっかりと固定してください。

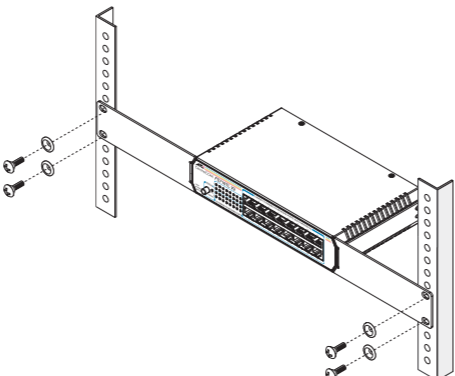


図7 19インチラックへの取り付け

オプション(別売)を利用した設置

- **壁面への設置**

本製品の壁面への設置は、オプションの壁設置ブラケットAT-BRKT-J22を使用し、以下の点に注意して行ってください。

- 壁設置ブラケットの使用法は、AT-BRKT-J22の取扱説明書をご参照ください。
- 壁設置ブラケットを使用して壁面に設置する場合は、必ず下図の○の方向に設置してください。

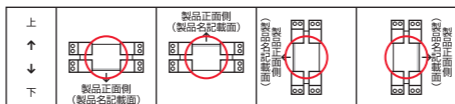


図8 壁設置ブラケットを使用する場合の設置方向

- ・壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。
- ・壁設置ブラケットを使用する際は、本製品のゴム足を外した状態で設置してください。

- ・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ・壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

- **スチール製壁面への設置**

本製品のスチール製壁面への設置は、オプションのマグネット Kit XSを使用し、以下の点に注意して行ってください。

- マグネットキットの使用法は、マグネット Kit XSの取扱説明書をご参照ください。

- 本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。



図9 マグネットキットを使用する場合の設置方向

- 設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。

- ・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ・マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。
- ・マグネットの取り付けは、マグネットキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

6 接続

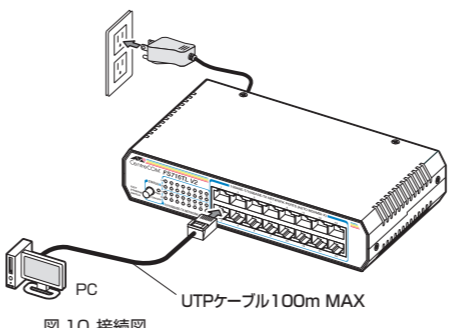


図10 接続図

ネットワーク機器の接続

- **UTPケーブルの接続**

UTPケーブルを使用して本製品とPCなどの端末を接続します。本体のLANポート(RJ-45)にUTPケーブルの一端を接続し、もう一端をネットワークポートに接続します。

- UTPケーブルのコネクタ部を持ち、カチッと音がするまで差し込んでください。

- **UTPケーブルのカテゴリ**

10BASE-T接続の場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上のUTPケーブルを使用します。

- **UTPケーブルのタイプ**

本製品はMDI/MDI-X自動切替機能をサポートしているので、接続先の種類(MDI/MDI-X)を意識することなく、どちらのケーブルタイプ(ストレート/クロス)でも使用できます。

- **UTPケーブルの長さ**

本製品とネットワーク機器を接続する長さは100m以内にしてください。

電源の接続(本製品の起動)

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

- 同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。不適切な電源ケーブルを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

- 本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で電源が入りますので、ご注意ください。

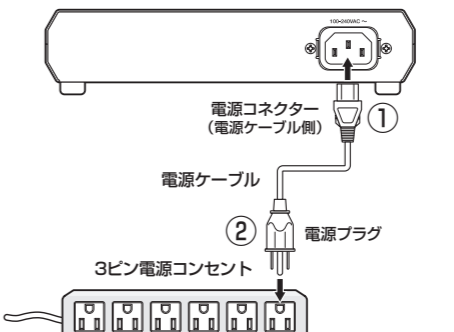


図11 電源ケーブルの接続

- 本体側の電源コネクタを接続する**
図11の①をご覧ください。

- 電源ケーブル抜け防止対策として、オプション（別売）の電源ケーブル抜け防止金具(AT-RTNR-01)をご使用いただけます。

- オプション（別売）のL字型コネクタ電源ケーブルと電源ケーブル抜け防止金具は、同時に使用できません。(L字型コネクタ電源ケーブルは、同梱の電源ケーブルに比べて抜けにくいケーブルです。)

- 電源プラグを電源コンセントに接続する**
図11の②をご覧ください。
このとき、本体前面のPOWER LEDが点灯することを確認してください。
UTPケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートのLINK/ACT LEDが点灯します。

本製品の停止

本製品を停止するには電源コンセント側の電源プラグを抜いてください。

- 電源を抜くときには、本体側の接続を先に抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

- 本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

7 構成

本製品はスタンドアロンでご使用いただけるほか、下図のとおりカスケード接続でもご使用いただけます。

カスケード接続

本製品はMDI/MDI-X自動切替機能をサポートしているので、接続先の種類(MDI/MDI-X)を意識することなく、どちらのケーブルタイプ(ストレート/クロス)でも使用できます。

- ・スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。
- ・カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

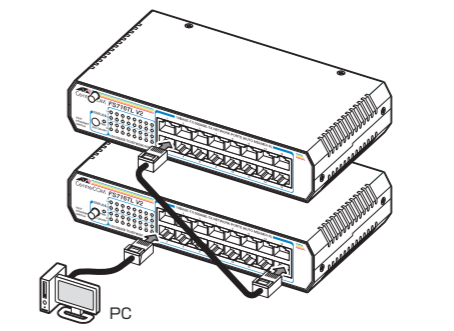


図12 カスケード接続

8 設定

通信速度 / 通信モードの設定

本製品と接続先機器の通信モードは、次の表の丸印の組み合わせになるように設定してください。
IEEE 802.3u規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品を接続する場合は、接続先機器のポートの通信モードをHalf Duplexに設定してください。

接続先ポート	FS716TL V2	
	Half	Auto
10M	○	○
	○	○
100M	○	○
	○	○

9 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

- **POWER LEDは点灯していますか?**
POWER LEDが点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がなく正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

- **機器を停止後、すぐに起動していませんか?**
本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

- **LINK/ACT LEDは点灯していますか?**
LINK/ACT LEDは接続機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

- LED ON/OFFスイッチを確認してください。
電力消費を低減するため、LEDを消灯している場合があります。エコLED切替スイッチを操作して、エコLED機能の動作を切り替えてみてください。

- 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。
接続先機器が障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。

- 正しいUTPケーブルが断線なく正しく接続されていることを確認してください。

- UTPケーブルに問題がないか確認してください。
ケーブルの不良は外観からは判断しにくい（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試してみてください。

- ケーブルの長さが制限を超えていないことを確認してください。
2つのネットワーク機器の直接リンクを構成するUTPケーブルは最長100mと規定されています。

- ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。
特定のポートが故障している可能性もあります。

- 接続先機器の通信モードを確認してください。
本製品のポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。
IEEE 802.3u規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品のポートを接続する場合は、接続先機器の通信モードをHalf Duplexに設定してください。